

新年おめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

コロナの感染拡大はいつにも終息の兆しすら見られない状況で、ついに関東圏で緊急事態宣言が出されるまでになってしまいました。心配な状況が続きますが、少なくとも学校においては、感染予防に万全を期し、これまでどおり、生徒の夢が叶う、笑顔あふれる教育活動が展開されるよう、全力で努めて参りたいと思います。

3学期は短期決戦！

本日、1月8日（金）、無事新学期をスタートさせることができました。冬休みを有意義に過ごしたであろう生徒全員の、さわやかな笑顔を見ることができて、とてもうれしく思いました。昨年度の同じ時期に発行した学校便りと内容も文章もほぼ同じですが、再度確認いただきたく、掲載させていただきます。

3学期は3年生が43日間、1、2年生が50日間の授業日数となります。1年の中で最も短い学期であり、短期決戦の学期とも言えます。この短い期間の中で、1年の締めくくりとしてのまとめと、卒業後、あるいは進級後の姿を思い描き、ステップアップするための準備を整えなくてはなりません。しかも、時間の過ぎるスピードはこれまでよりも数段速く感じられるはずです。ですから少しの時間も無駄にせず、効率よく課題解決の努力をすることが必要になります。これは決して簡単なことではないと思われま

す。でも、だからといって、焦ったり慌てたりする必要も全くありません。時は平等に与えられているものです。インドの政治学者ガンジーも言っています。「あなたの夢は何か。あなたの目的とするものは何か。それさえしっかり持っているなら必ずや道は開かれるだろう。」と。

具体的には・・・

(1) 生活面で・・・

- 昨年を振り返った反省や新年の自分の目標をもとにした生活をしっかりとスタートさせることが大切です。ご家庭でも見守りながら一声かけていただければと思います。保護者の皆さんもご自身の目標をふまえ、明るい未来を語り合ってほしいと思います。
- 特に3年生は規則正しい生活のリズムをしっかりと確立させることに心がけてほしいと思います。入試本番当日の日程に合わせて試験開始の時間に最も良い体と心の状態で臨めるよう、今からその習慣をつけていくことが大切です。

(2) 学習面で・・・

- 2学期の評価、評定をもとに、3学期はどんな学習に取り組むのか、どこを補っていくのかをしっかりと決めていくことが大切だと思います。ぜひアドバイスをお願いします。もちろん、各教科の先生方や担任の先生方に積極的に相談することも有効です。短い3学期はその分、逆に集中して取り組むチャンスとも考えられます。特に3年生には3年間の学習をまんべんなく振り返り、わからないところや、難しい問題を職員室の先生方に教わりに来るような姿が見られることを期待しています。
- 家庭学習のリズムを確立すると学習効率が高まります。授業やテストと同様、50分やって10分休むリズムは集中力が身につく、決められた時間内でやり遂げる精神力を養えると思います。特に3年生は受験、入試を考えた時、この集中力が大切になって来ます。入試会場の特別な場所において、平常心で臨み、普段の実力を発揮できるようにするためにも有効な方法だと思います。

大切なのはやはり心の有り様です。しっかりと自分と向き合い、目標を持ち、強い心で、この短期決戦に臨んでほしいと思います。



皆さんにとって、光り輝く1年になりますように！

3学期（1年）のスタートにあたり願うことは、生徒、保護者の皆さん、先生方が健康で元気に命を輝かせて生きることです。どうぞ、笑顔あふれる日々をお過ごしください。

例によって、始業式の式辞をもって、年頭のご挨拶とさせていただきます。

皆さん、明けましておめでとうございます。大きな事故もなく、こうして皆さんとまた、この場で会えたことを何よりうれしく思っています。冬休みはどうでしたか。お正月はどのように過ごしましたか。私は「静かな年末・年始」の呼びかけもあり、ほとんどの時間を家で過ごしました。コロナの感染拡大は連日最多を更新するばかりでいっこうに収まる気配がありません。予想したとおり、今年もコロナに始まることとなってしまいました。それでも、令和3年は、静かなときの流れと共に、輝きをもって幕を開けたことには変わりはありません。一刻も早いコロナの終息を願うと共に、終業式で述べたように、困難に負けない強い意思を持ち、希望あふれる年を、私たちもしっかりと歩んでいきたいと思います。

さて、2学期の終業式で、ヘレンケラーの言葉を紹介したのに引き続いて、今回、紹介したいのは、この人とその言葉です。誰だかわかる人いますか？

今回は難しいと思います。答えを言います。「松下幸之助」という人です。聞いたことある人いますか？

簡単に紹介すると、この人はとても小さな、電気のソケットを作る会社から、苦勞しながらも先端の技術革新を行い、一代で世界に名を連ねる家電メーカーの「ナショナル」（現在の「パナソニック」）を築いた人です。晩年には「松下政経塾」を開き、政財界に影響を及ぼす人材育成にも力を注ぎました。この人の残した功績は日本経済そのものの発展にも大きな貢献をしたと言われています。

その松下幸之助が、新年に際し、こんな言葉を残しています。「竹に節がなければズンペラボーで、とりとめがなくて風雪に耐えるあの強さも生まれてこないであろう。竹にはやはり節があるのである。同様に、流れる年月にも節がある、ともすればとりとめのなく過ぎていきがちな日々である。せめて年に1回は節を作って、身辺を整理し、長い人生に耐える力を養いたい。そういう意味ではお正月は意義深く、おめでたくて、心も改まる。」と。ちょうど今の、この時期に味わってほしい言葉です。あと、私が時々思い出す、こんなことも言っています。「人と比較して劣っていると言っても決して恥することではない。けれど、去年の自分とを比較して、もしも今年の自分が劣っているとしたら、それこそ恥すべきことである。」と。来年の始まりの時に、今の自分より劣っていることがないよう、少しでも成長した自分を感じることができるよう、今年一年を過ごしてほしいと思います。

今日から3年生は43日間、1、2年生は50日間の3学期がスタートしました。昨年も話しましたが、「1月は行く月、2月は逃げる月、3月は去る月」と表現されるように、とても速いスピードで過ぎていきます。そして4月には、ここにいる全員が新しい環境へ飛躍することになります。皆さん一人一人がそれぞれの新しいステージにおいて、自分の志に向かってしっかりと踏み出す1年になるよう、また、3学期がそのための十分な準備の学期になることを期待して、3学期始業式の式辞といたします。



感染症（コロナ、風邪、インフルエンザ）にかからないよう、『新しい生活様式』の徹底と『三密の回避』『不要不急の外出自粛』に努めましょう！